

編輯だより



酷暑尙去りやらず、風のない日は、丸ノ内の編輯室はトテモやり切れません、避暑だの旅行だのと涼くおさまつてをる人々は知らず、我々は唯々眞剣に自分の仕事に生きんが爲めに總てを工事畫報に捧げてをります。



時には自分が工事に對する種々な意見も發表したいと思ふが、何しろ雑務殺到でそれも進められない。



住宅建築に關する合評會は第一回を能瀬氏の宅で開く事にした、然し自分は遂に出られなかつたが、成るべく之は繼續して行き度いと思ふ。



前々號から多大の期待を以つて續けてなるウィルソングムの寫眞と凸版は實に特種な参考品であるが本號には止を得ず一回休む事にした。次號には發電所のプラントや珍らしい工事寫眞を出します、尙同寫眞前號にて和英説明文を入異ひたる事を謝します



大震災後滿二年間、此の間の諸種の工事は實際戦時状態でした、バラツクとは言へ東京市中殆んど舊

態になつた。然し此儘で悠々とはしてゐられない、工事は又前途多忙である。



鐵道の復舊工事は非常に順調に進捗してをります本號には特輯として熱海線丈けなまとめました、が漸次他に及ぼします。



此の工事寫眞三十餘枚は實に好参考たるものです酒匂川橋梁の第二連目構桁一連のみが横倒れに墜落した不思議な現象に就て、又早川根府川間の四百尺の大法面が如何になつたか、石積の橋脚が切斷されて何う廻轉したか、落ちた鋼桁は如何にして引揚げたか、之は其一々に就ても價値ある研究題材です。



八月には弊社員西川正次君を關西に派出させました、名古屋、大阪、神戸方面の本社贊助各位を御訪ねさせました處暑中にも拘はらず、御引見下さつた事を感謝致します、何分短目間の事で御訪ね出来なかつた方もあり又充分御高見を叩き得なかつた事を御詫が致します。八月二十九日 (一記者)

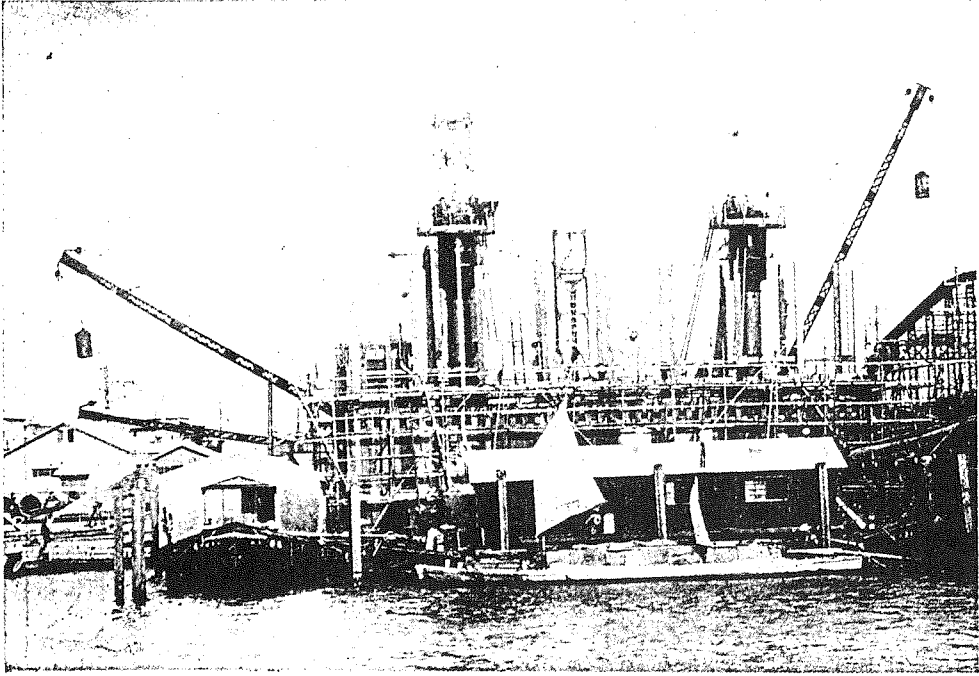
× × × ×



<p>土木建築 <b>工事畫報</b> 第一卷第八號 定價一部七十錢(税二錢)</p>	<p>每月一回十五日發行 一ヶ年十二冊發行</p>	<p>講讀料 壹部 七錢 參部 四錢 六部 四錢 外部行ハ一部稅共八十六錢 同稅共</p>	<p>注文は總て前金、送金は必ず振替貯金に して振替は東京〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 郵便六ヶ月以上申込は御希望の事 但集金拂込料とも御負擔の事</p>	<p>大正十四年九月十二日印刷納本 大正十四年九月十五日發行</p> <p>編輯兼 岡崎保吉 發行人 岡崎保吉</p> <p>東京府北豐島郡西巢鴨町池袋三三 東京市京橋區木挽町一ノ二四 印刷所 鷺見知枝麿 東京市京橋區木挽町一ノ一四 印刷所 鷺見文友堂 東京市麴町區有樂町一丁目一番地 發行所 工事畫報社 電話東京七〇〇八四番 振替東京七〇〇六五番</p>
---	-------------------------------	---	---	--

# 潜函工事用機械一式

PNEUMATIC CAISSON WORK MACHINERY.



復興局永代橋潜函工事に弊社より納入セル機械類一式ヲ以テ工事中ノ光景

## 潜函工事用機械

エーヤロツク、エーヤシヤフト、ホスピタルロツク、空気壓縮機  
捲揚機械、排水ポンプ、コンクリートミクサー、クラムシエルバ  
ケツト、アースバケツト、コンクリートバケツト、エーヤホース等

## 納入先

永代橋潜函工事、清洲橋潜函工事、東京電力株式会社鶴見火力發  
電所潜函工事

土木機械一式

## 東京商業貿易株式會社

本社 東京市丸ノ内三菱二十一號館

電話 大手 5121, 5704

支社 紐育 大阪

日本工人俱樂部編纂

# 土木講義錄

速成科補缺募集

代送料共一冊 金壹圓 六冊 五圓十五錢 二十冊 拾圓十五錢

本講義の特徴 執筆者は皆日本工人俱樂部の關係であり無報酬を以て獻身的に執筆されて居ります、夫々斯界の専門家であつて新進氣鋭の士であります。尙又讀者には講義によつて知識を得るに止まらず日本工人俱樂部の事業たる職業紹介とか購買とかを利用する事も出来たります。

修業年限 從來三ヶ年の課程一ヶ年半修了。内一ヶ年を以て大體の課程を修了し、半ヶ年は程度高き高等の學理を究めん豫定であります。年限長きに失する觀あるは一つは學問弊害打破の道具とせんとする俱樂部幹部の下心である。

### 内容

卷頭表 簡易計算圖表 力學、  
發刊の辭 本講義錄發刊の趣旨 混凝土 内務技師 宮本武之輔  
工業數學 東京帝大 助教授 山口 昇 河川工學 内務技師 蒲

測量 遞信技師 高橋三郎 上水道 東京市 技師 岩崎富久  
工業英語 内務技師 青木楠雄 橋梁 東京市 技師 谷井陽之助

下水 復興局 金子源一郎 手形講話 法辯士 高野弦雄  
經濟學 法學士 久保田 峻

### 上表外確定せる執筆者

都市計劃 帝大助教授 山口 昇 地質學 内務技師 蒲

土木行政 土木事務官 田中 好 施工法及材料 内務技師 佐藤利恭

道路 路東京市技師 藤島五郎 同 内務技師 奥村孝藏

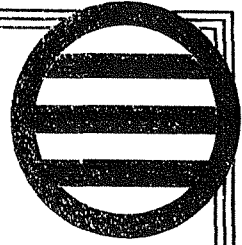
農業土木 東京府技師 藤田周藏 應川地震學 内務技師 金森誠之

◎貳錢切手封入御申込次第内容見本及規則書送附

發行所 日本文化協會

振替電話 東京小石川三三六二〇五

株式會社 東京市下石川區 五〇



|| 營業要目 ||

電氣・土木・建築・工事請負投資  
諸機械器具販賣・火災保險仲介

# 三列商事株式會社

本社

東京市京橋區銀座三丁目十九番地  
電話銀座 (四二六八・四二六九・四五〇六・四五〇七・四五〇八・五七三六・五七三七・六四〇二・六四〇三)  
振替口座東京四八二七七番  
受電略號登記(ミツマ)

大阪支店

大阪市東區北濱一丁目野村北濱ビル  
電話本局一三三〇・一三三一・一三三二

門司出張所

門司市東本町一丁目  
電話時長六〇五番

名古屋出張所

名古屋市中區新榮町三丁目陸川ビル  
電話東五八〇五番

横濱出張所

横濱市元濱町二丁目十四番地  
電話一七六四番

# 日本工業大觀

工學會編纂  
工政會出版部

定價 十圓

(外に送料六十錢)

工學界、工業界の大家名士二百四十氏の責任分擔執筆。

本書出でてわが工業界の狀勢始めて一目瞭然。日本工業大觀はこゝに太陽の如く我工業界に臨む。嚇々として光輝至らぬ限なし大正工業界興隆の氣運遂に此稀世の大著述を完成す。まさにわが工業界を通じて空前の國家的一大收穫と云はねばならぬ。首尾一貫その題目に付て日本で最も適當なる著者が撰ばれてある。本邦工業關係學會協會の聯合團體たる工學會にして始めて之を編纂し得べく、工政會出版部にして始めて之を出版し得べき末曾有の名著

## 内容目次

第一編 本邦に於る工學及工業の概要	第七章 石炭、石油、燃料	關係諸機關要覽
第一章 一般事項並に工業政策	第八章 船舶及海運	第一章 工業學會要覽
第二章 都市計畫	第九章 電氣機械器具	第二章 科學及工業に關する試驗所、研究所要覽
第三章 鐵道	第十章 染織	第三章 工業關係學會、協會、其他團體要覽
第四章 建築	第十一章 化學工業	第四章 工業關係新聞雜誌要覽
第五章 採鑛冶金	第十二章 食品工業	
第六章 雜工業	第十三編 本邦主要工場要覽	
	第十四編 本邦に於る工業	

# 近刊豫告

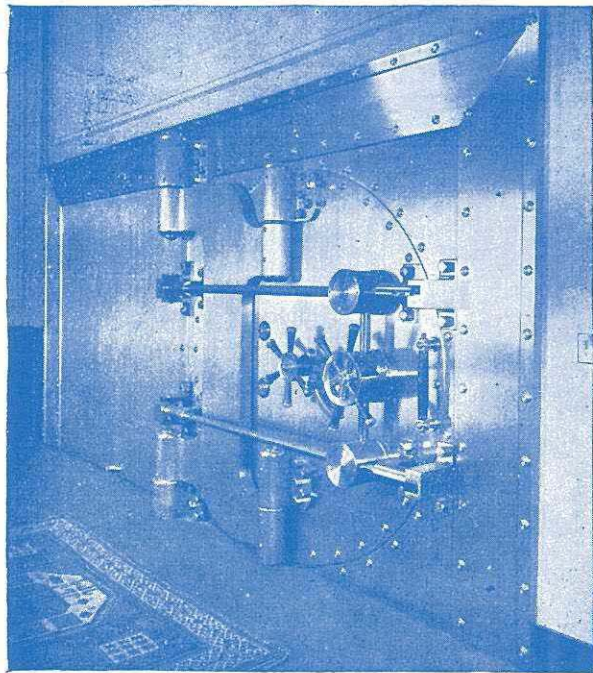
◇ 十一月末配本豫定 ◇

本書は日本鑛業會、日本鐵鋼協會、土木學會、火兵學會、煖房冷蔵協會、造船協會、建築協會、工學化學會、電氣學會、電信電話學會、機械學會、照明學會を以て會員とする社團法人工學會之を編纂し、工政會出版部之を發行するもの。本書の價值、内容は此の一事を以て明かであらう。(内容一覽の冊子御申込次第贈呈)

電話大 手 四八七  
振替東京 二七二七四

工政會出版部

東京市麴町一ノ區



ヨークセーフ  
ロック會社製  
金庫扉

YORK  
VAULTS

ヨーク金庫扉ノ優秀ナルハ既ニ世評ノ如ク特ニ北米合衆國ニ於ケルファイデラルレザーブボードノ特選ニ依リ十二ノファイデラルレザーブ銀行ニ採用ノ名譽ヲ博シ又米國大藏省各州郵便局、裁判所及ビニウヨーク ストツク イキスチ エンヂ ジエー पी モルガン會社、ニ

ウヨーク カストム ハウス、ニウヨーク クリヤールィングハウス等ヲ始メトシ又日本ニ於テハ東京、大阪、名古屋ニ於ケル著名ナル銀行等ニ採用セラレテオリマス

詳細ハ御一報次第御説明申上ゲマス

日本一手販賣代理店

アメリカン トレーディング コンパニー インコーポレーテッド  
米 國 貿 易 會 社  
機 械 部

東京市麴町區有樂町一丁目一番地  
神戸市北町九十九番地

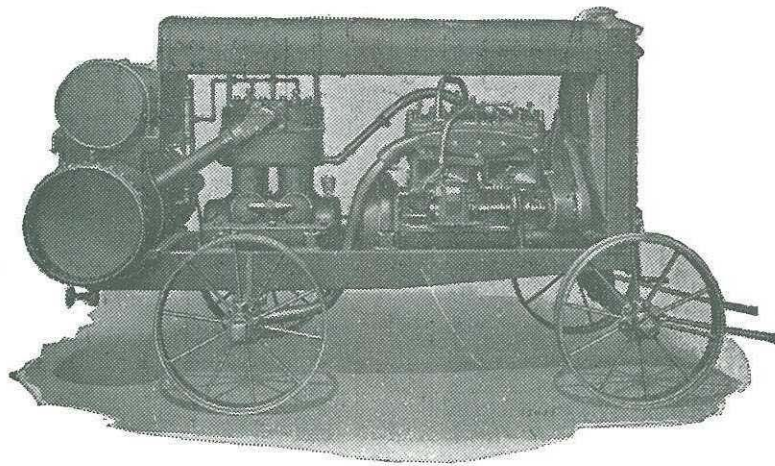
# インガールランド會社製

可搬式空氣壓縮機械(二〇番型)

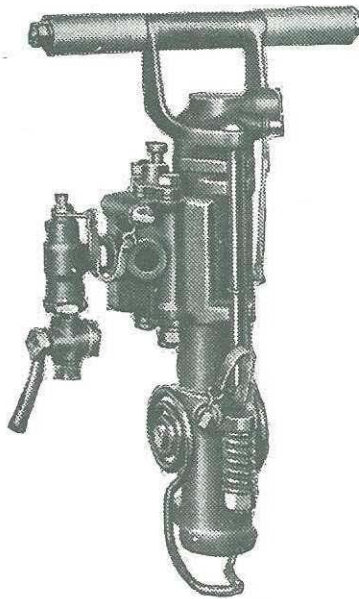
空氣容量毎分

九吋×八吋型	二百五十立方呎
八吋×六吋型	二百立方呎
七吋×六吋型	百六十立方呎
五吋×五吋型	九十立方呎
四吋半×四吋型	六十三立方呎

機構堅牢、在庫豊富  
各種型錄贈呈



ジャックハンマー型  
ライナー型 鑿岩機



ニユーマチックリベッター及ドリル  
鑿岩機  
混凝土及破砕泥  
捲揚機  
其他一般土木工具

## 米國貿易會社機械部

東京市麴町區有樂町一ノ一  
神戸市北町九九

